

5月30日(月)は「ごみゼロの日」。狛江市では「ごみ減量に資するあらたな方策の提案」の答申がこし1月に出された。答申を作成した狛江市ごみ半減推進審議会会長の武田新栄さん(69)に話を聞いた。

「狛江市ごみ半減推進委員会は、日の出町にあったごみ最終処分場が限界に近づき、ごみの分別などについて市民レベルで考える必要性が高まったため、平成5年に発足しました」

「私は知人に誘われて平成21年に委員になりました。都清掃局職員の経験があったため、学識経験者扱いになっています。委員会は事業者、ごみ収集業者、公募委員、行政など12人で構成され、女性が5人います」

「委員会は年に6回程度行われ、ごみ収集に関する実施計画を立てて進行状況を把握するほか、実施した事業の計画や結果も検討します。市民の出したごみの内容を調べる組成調査にも立ち会います。委員長は、委員の意見をま

自分の生活でできることからさらなるごみ減量をお願いします

とめ、会議をスムーズに進行させることが大切な役割です」

「ごみ半減推進審議会は、市民の皆さんの生活に密着したごみについて、資源循環社会を実現するために、今後、継続的にごみ減量を進めるためには、将来を担う子どもたちへの環境教育の推進が大切です。皆さんにお願いしたいのは、生ごみは袋に入れる前に水切りをする、古紙は可燃ごみではなくリサイクルする、買い物をする時はマイバックを持参してレジ袋を断るなどです。まず自分の生活でできることからごみ減量に取り組んでいただきたいです」



狛江市ごみ半減推進審議会 会長
武田 新栄さん

「行政と市民の取り組みを検討しています。17年10月にごみ有料化がされてから10年経過しましたが、ごみ収集量は、市民の皆さんの協力のお陰で、有料化前に比べて4,386トンの約20%減りました」

「今後、継続的にごみ減量を進めるためには、将来を担う子どもたちへの環境教育の推進が大切です。皆さんにお願いしたいのは、生ごみは袋に入れる前に水切りをする、古紙は可燃ごみではなくリサイクルする、買い物をする時はマイバックを持参してレジ袋を断るなどです。まず自分の生活でできることからごみ減量に取り組んでいただきたいです」

武田新栄さんの横顔=宮城県仙台市生まれ。和歌山県西牟婁郡大塔村(現・田辺市)に転居。名古屋の大学を卒業後、昭和48年に東京都清掃局に就職。清掃工場の運転維持管理や建設、グリーンセンター多摩川(稲城市)の建設工事などを担当した。昭和53年に狛江市に転居。狛江市卓球連盟副会長、平成26年から上和泉地域センター運営協議会会長を務める。趣味は卓球と囲碁。



◆ 48 ◆

確かでない整備技術が好評

都宮狛江アパート近くの本橋モータース(和泉本町4-2-12)は、昭和23年から営業している市内で最も古い自動車整備工場、車の販売や自動車保険なども行っている。

創業者は、現社長の本橋実さん(67)の父・富蔵さん(大正5年~平成6年)。農業と金物店を営む家の次男に生まれた富蔵さんは、昭和9年にパイロットにあこがれて海軍航空隊に入隊した。パイロットにはなれなかったが、自動車の運転などの技術を身につけ、横須賀で整備士として働いた。戦後はしばらく家業を手伝ったが、結婚後に「飛行機の整備技術を生かした仕事をしよう」と現在の場所で自動車整備の仕事始めた。

当時は、重い荷物を運ぶのは馬車が主流で、小型オート三輪車を持つ農家も



オート三輪に乗る(前から)本橋昇さん、実さん、富蔵さん(昭和28年)

多少あったが、四輪車はまだ珍しかった。富蔵さんは、オート三輪をはじめオートバイ、四輪車を搭載したあらゆる車の整備を手がけた。その頃は多くのメーカーがさまざまな種類の自動車を製造していたうえに、故障も多く、修理には知識や経験が必要で整備工場も少なかった。このため、富蔵さんは依頼を受けて府中市や小金井市まで出かけたという。また、地元の消防団に頼まれて、オート三輪車をポンプ車に改造し喜ばれたという。

創業から数年後にオート三輪の普及で仕事が軌道に乗り、新しい職業として入店を希望する若者も多かったという。しかし、31年に自動車事故に遭い、1年半仕事を休業した。復帰後、第一次モータリゼーションブームで軽自動車や中古車が売れるようになり、業績も回復、保険も取り扱うようになった。

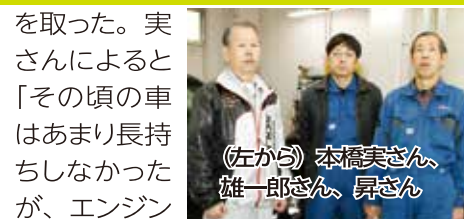
長男の実さんは、手先が器用で機械いじりが好きだったので、中学時代から家業を手伝ううちに、整備のおもしろさを知った。また、次男で専務の昇さん(65)も兄に続いて家業を手伝うようになった。実さんと昇さんは高校卒業後に家業に従事、自動車整備士の資格

本橋モータース

四輪車、農業機材など、エンジンを搭載したあらゆる車の整備を手がけた。その頃は多くのメーカーがさまざまな種類の自動車を製造していたうえに、故障も多く、修理には知識や経験が必要で整備工場も少なかった。このため、富蔵さんは依頼を受けて府中市や小金井市まで出かけたという。また、地元の消防団に頼まれて、オート三輪車をポンプ車に改造し喜ばれたという。

創業から数年後にオート三輪の普及で仕事が軌道に乗り、新しい職業として入店を希望する若者も多かったという。しかし、31年に自動車事故に遭い、1年半仕事を休業した。復帰後、第一次モータリゼーションブームで軽自動車や中古車が売れるようになり、業績も回復、保険も取り扱うようになった。

長男の実さんは、手先が器用で機械いじりが好きだったので、中学時代から家業を手伝ううちに、整備のおもしろさを知った。また、次男で専務の昇さん(65)も兄に続いて家業を手伝うようになった。実さんと昇さんは高校卒業後に家業に従事、自動車整備士の資格



(左から)本橋実さん、雄一郎さん、昇さん

を取った。実さんによると「その頃の車はあまり長持ちしなかったが、エンジンなどの構造がいまより単純で、時間がかかったが整備は難しくなかった。現在の車は電気で動く部品が多く、整備の手順も複雑になっています」と話す。

実さんの長男・雄一郎さん(45)は、高校を卒業後に自動車整備の専門学校で4年間学び、自動車整備士の資格を取得、大手自動車メーカーに入社した。8年間勤務し車のセールスや整備を担当したが、大規模なリストラの際に同期の社員が対象となったため、「自分は家業を継ぐから」と自ら希望して平成13年に退社、翌年から同店で仕事をしている。

同店は、狛江通りの拡張の際、自宅と整備工場を建て替えるとともに設備の充実をはかった。

最近では、車に乗る人が減っているのが悩みだが、親子2代の顧客も多く、「全員が国家資格を持ち、陸運局の認証工場であることに加え、早くていねいで確実に整備してきたことが信用につながっています」と話している。

本橋モータース ☎3489-2808 営業時間=午前9時~午後7時 日曜・祝日休み

昭和23年に創業/飛行機整備の技術生かす/自動車ブームで軌道に



挨拶する高木光狛江市社会福祉協議会会長

市民活動支える拠点
こまえくぼ1234開館

狛江市市民活動支援センター「こまえくぼ1234」が和泉本町1-2-34に4月にオープンした。

市民と行政による参加と協働のまちづくりを推進するため、ボランティア・市民活動の普及と推進、市民公益活動への支援などを目的に開設されたもの。

のべ床面積約187平方メートルの館内はフリースペース、打ち合わせスペースなどがあり、パソコン、公衆無線LANなどが設置してある。施設の利用は無料。運営は狛江市社会福



社協議会が担当する。

4月2日のオープニングでは地元産野菜の即売やジャズ、おはやしの演奏などが行われ、参加した市民など約100人が開館を祝った。

開館は午前10時~午後5時で火曜・祝日休み。

問い合わせ ☎5761-5556 同センター。

狛江消防少年団が8日に40周年記念式典

狛江消防少年団(三宅豊団長)が発足40周年を迎え、記念式典を8日(日)午後2時30分からエコールマホールで催す。

同団は昭和51年4月に全国で初めて誕生し、小学3年生から高校3年生までの少年少女が

規律ある団体行動を通じ、防火防災に関する知識と技術を身につけるため、応急救護などの訓練などを行うほか、防火パトロール、市内のイベントへの参加などさまざまな活動を行って地域に貢献している。平成23年度には「社会貢献青少年表彰」を受賞した。

式典では東京消防庁音楽隊の演奏も行われ、市民も入場できる。

問い合わせ ☎3480-0119 内線313 狛江消防署警防課防災安全係。

こいのぼりや武者人形むいから民家園が展示

「こどもの日」に先がけてむいから民家園でこいのぼりや武者人形が飾られ、訪れる親子の目を楽しませている。

同園では敷地内にこいのぼりを上げるほか、古民家に昭和初期の武者人形を飾っており、伝統行事を味わうため訪



古民家で泳ぐこいのぼり

れる人も多いという。展示は5日(日)まで。

問い合わせ ☎3489-8981 むいから民家園。

草や木の命に感謝 泉龍寺で草木供養祭

草木供養祭が4月8日に元和泉の泉龍寺で開かれた。

樹木や草花に感謝し、作業の安全を祈るため、狛江造園組合(高木生一組合長)が昭和45年から毎年開いているもので、61年には高さ176センチ、幅75センチの安山岩製の供養塔を同寺境内に立てた。供養塔



草木供養祭

は市内でも数少ないという。この日は会員など約30人が参列、「草や木にも命があるので、大切にしなければ」などと話していた。

狛江市歯科医師会が29日に健康フォーラム

一般社団法人狛江市歯科医師会が29日(日)午後1時からエコールマホールで公開講座「第4回狛江市歯科医師会健康フォーラム21」を催す。

「楽しく食べる、話す、歌う、笑うがもたらす楽しく健康な毎日」をテーマに、昭和大学歯学部名誉教授の向井美恵さんが「心とからだを育む食べ方、おいしく食べて健康長寿」、NPO法人ミュージックasパレットの加藤智子さんが「歌って!笑って!!いい汗かいて!!!心もからだも若返る音楽の力」と題して講演する。参加無料。先着200人に粗品プレゼント。

問い合わせ ☎3488-7711 狛江市歯科医師会事務所。

狛江青年会議所が4日に狛江ウォーク

狛江の良さを歩いて知ろうと「狛江の魅力発見!狛江ウォーク」が4日(日) (小雨決行)に催される。

狛江青年会議所(北條健理事長)が初めて催すもので、当日は午前9時に市役所前市民ひろばに集合、午後3時までむいから民家園、兜塚古墳、西河原公園、多摩川土手などを回るほか、狛江産の野菜などを使った昼食やおやつ、酒の試飲会、絵手紙体験、市の歌「水と緑のまち」の鑑賞と歌唱など盛りだくさんの内容。全長は約8キロ。

参加費は1,000円(食料費実費)で定員は30人。申し込みはEメールに氏名、電話番号を書き、komparu_gosei@yahoo.co.jpへ1日(日)までに。

問い合わせ ☎090-1797-5319 中村さん。

子ども食堂が15日にバザー 協力和理解を呼びかけ

子どもたちに食の大切さを知ってもらうため活動している市民団体「子ども食堂」が15日(日)午前10時~午後3時にあさひホーム(和泉本町3-11-9)でバザーを開く。

活動をより充実させる資金を募り、市民に理解を広げるために開くもので、子ども服、菓子、日用品などを販売する。また、22日(日)午前11時30分~午後2時にあいとぴあセンターで子ども食堂を行う。

問い合わせ ☎090-1766-6992 子ども食堂 市川。